

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

湊酒田中心市街地地区

平成27年12月

山形県酒田市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	2,276	3,200	2,194	確定 ● 見込み	×	あり なし	●	2,089	H27年4月	×	主要事業の実施断念による。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大きな要因として駅前関連事業の断念があり、数値が悪化している。
指標2	観光施設入込数	人/年	1,549,077	1,610,000	1,542,055	確定 ● 見込み	×	あり なし	●	1,548,174	H27年6月	△	主要事業の実施断念、震災による悪影響による。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	震災後の悪影響が残る中、山形DCキャンペーン関連事業による誘客効果もあり、回復の兆しがみられる。
指標3	観光用自転車利用者数	人/年	9,382	12,500	7,487	確定 ● 見込み	×	あり なし	●	8,568	H27年4月	△	震災による悪影響で観光客自体が減少したことによる。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	公園整備や道路美装化の効果、観光客自体の回復傾向もあり、徐々に改善している。
指標4	中心市街地住みやすさ調査	%	34.7	40.0	39.5	確定 ● 見込み	△	あり なし	●				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	公園整備や中心市街地の賑わい創出のための取組みが、魅力ある居住環境の向上に寄与した。

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1					確定 ● 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定 ● 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3					確定 ● 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

2. 今後のまちづくり方策の検証

添付様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート様5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> 成果を持続させるために行う方策 	空き店舗の活用による活性化	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所と連携して設置した中心市街地まちづくり推進センターによる商店街支援活動を継続。 空き店舗を活用したチャレンジショップ事業を継続。 空きビルを活用し、新しいサービス機能を付与した公共施設整備事業に着手。 不動産業団体や商店街組織との意見交換会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい業態の店舗が開店するなど、まちの賑わいに繋がっている。 地元団体との協議を重ね、まちづくりに関する意識が向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> 開業店舗を活かし、波及効果を高めるための施策の展開。 業界団体を越えた連携の支援。
	中心市街地内における観光資源の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> 山居倉庫周辺地区の整備に関する検討。 日和山公園の魅力向上のための整備事業に着手。 中心市街地循環バス運行事業を実施。 市と商工会議所による街あるきイベントを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 循環バスにより、回遊性が向上した。 街あるきイベントに大勢の市民が集い、観光資源の魅力を再発見した。 	<ul style="list-style-type: none"> 山居倉庫周辺地区のまちづくり方針の策定。 観光資源のPR強化。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標を達成するための改善策 残された課題・新たな課題への対応策 その他 必要な改善策 	中心商店街の経営の安定化と個性的で魅力ある商業活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所と連携して設置した中心市街地まちづくり推進センターによる商店街支援活動を継続。 酒田市創業支援センターを立ち上げ、創業、起業を検討している方の専門的相談にワンストップで対応。 商店街の歩道スペースでのオープンカフェイベントなど、新しい事業を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規創業を含めた開業が進んでいる。 商店街が主催する新しいイベントが注目され、魅力向上に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> 開業店舗を活かし、波及効果を高めるための施策の展開。 各種イベントの継続的な実施。
	中心市街地の玄関口の整備と観光施設への誘導	<ul style="list-style-type: none"> 酒田駅周辺地区における対話型市場調査を実施。 山居倉庫周辺地区の整備に関する検討。 中心市街地循環バス運行事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田駅周辺地区の市場性を確認し、整備方針の策定を進めている。 循環バスにより、回遊性が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田駅周辺地区の早期完成。 山居倉庫周辺地区のまちづくり方針の策定。
	居住人口の増加に資する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 空きビルを活用し、新しいサービス機能を付与した公共施設整備事業に着手。 中心市街地循環バス運行事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元団体との協議を重ね、まちづくりに関する意識が向上している。 民間によるサービス付き高齢者向け住宅が開業するなど、住環境が向上しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 居住誘導の要因となる環境整備、都市機能の整備。

添付様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくりの方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
中心市街地活性化拠点区域の特性を生かした、魅力ある都市空間の創出	区域内で新たにオープンする公共施設や、市街地再開発を視野に取り組み民間施設等を中心に、点ではなく面を意識した連携によって、まちの拠点づくりを進める。また、中心商店街のシンボリック歩行者専用道路の改修にあわせ、魅力的なイベント事業を実施し、来街機会の創出、回遊性および滞留性の向上を図る。	平成28年度～	官民協働の深化、集客力向上のためのPR方法や情報発信の検討。イベント事業の継続的な実施と魅力的なコンテンツの提供。街なか回遊の起点、中継点となりうる機能の構築。
新たに作成する観光戦略に基づいた観光施策の展開	観光資源の見直しや資源特性の洗い出しと再編集により、オリジナルな旅ストーリーを確立する。このストーリーを軸として各種の観光施策や観光プログラムを展開し、当地の知名度や観光満足度の向上を図る。	平成28年度～	観光を戦略的に推進していくための体制づくりと連携。インフォメーション機能の充実や二次交通手段の確保といった環境整備。観光マネジメント人材の育成。